

グローバルホーク、横田からアンダーセン空軍基地へ帰還 *Global Hawk redeploys from Yokota Air Base to Andersen Air Force Base*

October 21, 2019

374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋空軍は10月20日、横田基地に一時的に展開をしていた第319偵察航空団グローバルホークRQ-4の分遣隊をグアムのアンダーセン空軍基地へ帰還した。

同部隊は悪天候が管轄地域における運用に影響を及ぼす可能性がある夏の台風シーズンの3か月の間、横田に展開し運用を続けた。

「第319偵察航空団第1分遣隊を迎えられたことを嬉しく思う。同部隊は横田のチームとシームレスに一体化しただけでなく、地元のコミュニティとの関係も強化できた。RQ-4の任務は、インド太平洋地域で重要な役割を果たしており、その存在は日本の安全と安定に寄与する」と第374空輸航空団司令官オーティス・C・ジョーンズ大佐は述べた。

2011年以来、太平洋空軍はグローバルホークを2014、2015、2018年に三沢基地に展開し、2017年と2019年に横田基地に展開した。

「悪天候が見込まれるシーズンに、任務を遂行する別のプラットフォームを確保することで、日本の防衛を支える米国インド太平洋軍と同盟の偵察運用要件を維持し、地域の国際平和と安全維持に寄与することができた。グローバルホークの部隊は、安全かつ完璧に各任務を毎日、表立たない形で無事順調に運用を行った。それも第374空輸航空団の強力なサポートのお陰に他ならない」と第319運用群第1分遣隊長ベン・クレイクラフト中佐は述べた。

グローバルホークは、高高度で長時間滞空し、遠隔操縦方式の非武装機で、空中偵察システムとして運用されている。また、内蔵された数々のセンサーとカメラにより、広大な空域を昼夜を問わず高解像度で全天候に対応した画像を永続的に提供できるように設計されている。

グローバルホークは、情報収集、監視、偵察(ISR)の任務に加え、人道支援や災害救援活動に使用される。これまでに起こった主な任務の一つに、2011年東日本大震災の「トモダチ作戦」での人道支援・災害救援活動がある。

「これまでにRQ-4は、人道支援や災害救援活動に貢献しただけでなく、高高度長時間滞空(HALE)偵察で比類のない能力を発揮してきた。2017年の時のように、横田基地は関東平野の好い天候下であり基地周辺のフライトや地域に影響を及ぼさず運用できるため、最も適した場所だった」とクレイクラフト中佐は説明した。



8月5日、横田基地に到着したRQ-4